

2013年度公共建築月間の記念講演会は、「建築・都市とストック社会」シリーズの第2回として、今後のストック社会の旗手になる、北川原温先生にお願いいたしました。北川原先生は、森羅万象をデザインに持ち込むすごい方で、同じ東京芸術大学の吉田五十八先生の伝統的日本建築様式を継承しながらも新しい日本文化を創造する、これからの日本の木造建築のあるべき姿を世界に広げる方ではないかと予感しています。その表れとしてさまざまな賞を受賞されています。中でも、建築学会賞作品賞を受賞された



これからの木造のあるべき姿
「ビッグパレットふくしま」は、原発事故の後に避難して来て1年間離れなかった約3,000人にとって、救いの空間になりました。建築のほかにも、パリのオペラ座やオランダのモダンバレエの舞台装置など、世界のプロジェクトを手掛けられています。ことしは次世代公共建築研究会の木造建築部会長も引き受けていただきました。北川原先生には、これからの日本の木造のあるべき姿を示していただきたいと思っております。

建築保全センターは、2013年度公共建築月間記念行事として、11月27日、東京都港区の建築会館ホールで、「保全技術研究会・記念講演会」を開催した。国土交通省が提唱する「社会資本メンテナンス元年」であることは、地方自治体の関心が高い「戦略的な公共建築マネジメントの取り組み」に関する研究報告やパネルディスカッションが行われるとともに、公共分野で今後の普及が求められている「木の建築」について、先導役を担う東京芸術大学の北川原温教授(北川原温建築都市研究所主宰)が講演。素材から行政サービスのあるあり方まで、建築ストックの時代のこれからの展望した。

記念講演会 「木の建築について」

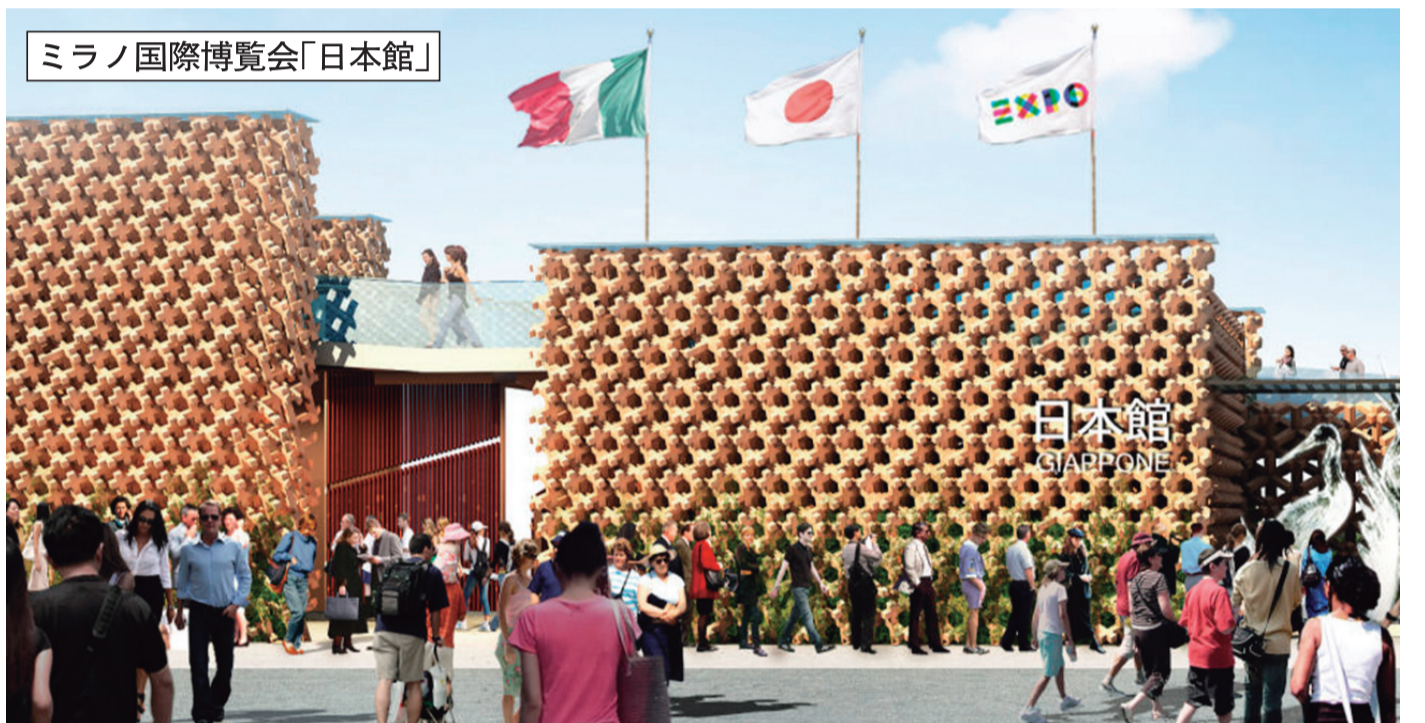
日本古来の「生命論的」木造建築を発信



東京芸術大学教授
北川原温氏

本日は「木の建築」についてお話したいと思っております。私の実家は築350年ほどの茅葺き屋根の民家で、若い頃は茅葺き田舎の自然環境に反発していたのですが、年齢とともに感じ方が変わり、15年ほどは木造建築にのめり込んでいます。いまでは、木造だけの建築でできた人口5万人から10万人ほどの都市をつくれないうかという夢を描き、ある委託研究の環として真剣に考え始めているところです。いま、2015年にシノで開かれる国際博覧会に向けて、「日本館」の建築プロテクトを始めておりますが、基本コンセプトとして最初から、日本の木の技術を使つてきた。設計プロポーションで適定された石本建築事務所と

プロポーション 細部に美しさ



2015年5-10月にイタリア・ミラノで開かれる国際博覧会には、「地球に食料を、生命にエネルギーを」のテーマのもと約140カ国・機関が参加する。日本館は、「Harmonious Diversity——共存する多様性」をテーマに、日本の食文化に関わる知恵や技術を発信。日本の伝統文化と先端技術を融合した「立体木格子」で、「多様性を抱くうつわ」を表す。



長野県の「稲荷山養護学校」は、構造と床以外の仕上げすべてに、長野産のカラマツ材を使っています。カラマツのムク材は変形が激しく使用を敬遠しがちな材料ですが、県の30年以上にわたる研究により、構造材として十分オリエーティの高品質材料と分かりました。ここでは、構造材を金物を使わずに「めり込み」作用を利用して接合しています。また、一般に流通する105角の小径材を使って大型木造建築をつくることに挑戦しました。山の保全を考へて間伐材を使い、県の努力でトレーサビリティを実現。つまりすべてこの材料の出どころを記録し、子どもたちに伝えて教育にも役立てています。

「つうした山の保全と木の活用の両

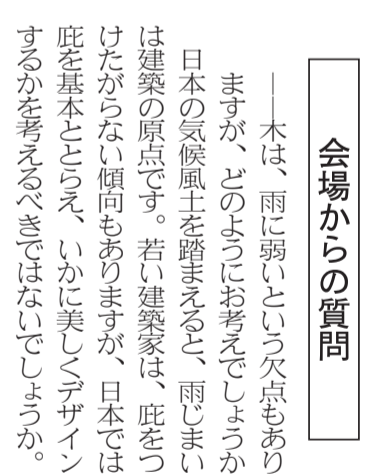
「ついで、私が取り組んできた木造の仕事を紹介したいと思います。



稲荷山養護学校

科学で解明不能な 大工の感性

人三脚で、良い建築をつくらうと取り組んでいます。とはいっても、木造建築は日本特有のものではなく、世界中にあります。ヨーロッパでは、ノルウェーに12世紀の木造教会などが現存しています。ただ、これらは2次元の平面を構成していくパネル構造であり、日本のように3次元的な木の組み方はしていません。また、現代ヨーロッパでは、ドイツに7階建て、イギリスに9階建ての木造建築が建てられました。木の香りや粘り、めり込みなどの日本人が考える木の良さは考慮せず、鉄骨と同じような取り扱いはしていません。



愛知万博の「望楼」は、愛知県産ヒノキを使い、格子の中に厚さ5センチのガラスの保護パネルを埋め込みました。木とガラスでも、めり込み作用

「木は、雨に弱いという欠点もありますが、どのようにお考えでしょうか。日本の気候風土を踏まえると、雨じみは建築の原点です。若い建築家は、庇をつけたり傾斜を設けたりしますが、日本では庇を基本とせず、いかに美しくデザインするかを考へるべきではないでしょうか。

立は、ヨーロッパでも昔から行われており、ベネチアでは120%離れたドロマテの森林を保有して植林し、都市の基礎杭の材料を切り出していたといわれています。



飛騨牛記念会館

「木造建築は「生命論的な建築」といっていい。科学的に100%解明できない部分があります。それに近いものを「つう」と取り組んでいます。私たちがよく知る近代建築を「機械論的な建築」とするならば、日本古来の木造建築は「生命論的な建築」といっていい。科学的に100%解明できない部分があります。それに近いものを「つう」と取り組んでいます。

「木造建築は、木造の空間に入った感じ、木に触れた感じ、寄りかかった感じなどを体験してもらっています。長野県や岐阜県も見学を受け入れていて、専門知識がない方にも良さは分かりますし、子どもたちも喜んでいきます。

「木造都市をつくる夢についてお話しします。いま大学を通じてまちづくりを支援している山梨県北杜市の小淵沢は、縄文文化が豊かな土地で、尾島先生の言葉で言うところには「感じる場所」です。木造都市について、どこを対象に研究を進めるかは未定ですが、こういう場所でも実現できたらいいなと感じています。

モックアップをつくったとき、協力してくれたイタリアの現地の木材加工所は、めり込み作用を理解できず、はじめは「接合部にすき間がないとつう」と言われました。しかし、「木ついで叩けば入る」などと説明している間に、次第に理解され始めました。いまでは、いい建築がつくれると確信しています。

夢は木造だけの小さな都市づくり



(一財)建築保全センターは、建築物の維持管理や改修など保全に関する調査研究・企画立案・技術開発等を通じて公共建築の適正な保全と新しい視点からのストックマネジメントを支援します。

保全の情報センターとして
公共建築物の有効活用をサポートします。
一般財団法人 **建築保全センター**
BMMC Building Maintenance & Management Center
〒104-0033 東京都中央区新川11-24-8 TEL.(03)3553-0070 FAX.(03)3553-6767
E-mail:info@bmmc.or.jp URL:http://www.bmmc.or.jp